

# 宇宙と「宇宙の学校」の学びの違い

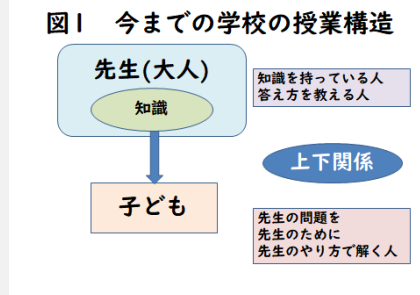
副会長 稲葉 茂

平成 28 年 12 月に中央教育審議会答申が出され、学習指導要領等改訂の方向性が示された。これを受け、平成 29 年 3 月に新学習指導要領等が公示され、小学校は 2020 年度から新教育課程が全面実施となる。この新学習指導要領等が子どもの学びを支える時期は、2020 年から約 10 年後の 2030 年頃までと思われる。2030 年やその先も見通した社会の姿を考えながら、今の子どもたちをどう育むかが重要となる。

これからの社会は、少子高齢化、情報化、グローバル化、人工知能の発達などの社会的変化が加速度的となり、先を予測することが大変困難となることが予想される。このような社会の中で子どもたち一人ひとりが、持続可能な社会の担い手として必要な新たな価値を生み出せる力の育成が求められていくと思われる。

では、今までの学校の授業構造はどのようになっていたかを見ると図 1 の様ではないだろうか。

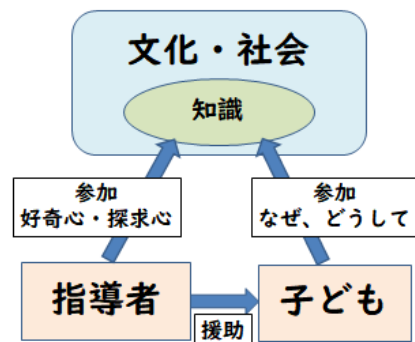
先生や大人が持っている知識を子どもに伝えるというスタイルが中心だった。



このようなスタイルでは、予測困難な社会変化に対応することはできない。では、子どもの未来を保障するためには、どのような形に変えていく必要があるのだろうか。そのヒントは、私たちが実践している「宇宙教育」の中にあるように思う。宇宙教育の実践の場である「宇宙の学校」では、親子がともに協同してミッションに取り組んでいる。また、指導者もその親子に共感しながら共に考える姿勢で接している。その様子を整理すると右の図 2 になる。

今、学校では「主体的で対話的で深い学び」が求められている。このような学びを「宇宙の学校」では、10 年以上前から実践していることを改めて凄いことだと実感している。

図2 宇宙教育の学び構造



# KU-MA とわたし 広報・アウトリーチの 25 年

会員 寺蘭 淳也(会津大学/月探査情報ステーション)

KU-MA の古会員ではあるのですが、一応まずは自己紹介から。宇宙研で大学院生を過ごし、月探査と宇宙研の広報文化を学んで育ったあと、宇宙開発事業団(NASDA)へ就職。宇宙研と NASDA が共同で進めようとしていた月探査計画…後の「かぐや」の立ち上げに従事しました。

2 年間の NASDA 暮らしのあと、(財)日本宇宙フォーラムで広報や探査事務局などの仕事をしたあと、2003 年に再び NASDA へ出向の形で向かいます。ここでは広報部に所属し、JAXA 広報の立ち上げや、誕生直後に連続したトラブル対応、そして 2005 年の「はやぶさ」タッチダウンの広報などを行いました。

2007 年に現在の会津大学へ移籍し、現在は大学運営に携わりつつ、本来の研究内容である月・惑星探査データの利用やそのためのシステム開発も行っております。

KU-MA のお話を伺ったのは、2007 年の冬でしょうか。講演で福島・いわき市に来られた的川先生を、私の車で郡山市にお送りした、その車内だったと思います。的川先生が JAXA 在籍時から力を入れてきた宇宙教育がいよいよ本格的に動き出す、そのお話を聞いて大変興奮したことを覚えております。

私自身は、教育というよりは広報・アウトリーチ(普及啓発)の立場でこれまで動いてきました。特に、月・惑星探査の広報に力を注いできました。1998 年には当時の「かぐや」チームが立ち上げたウェブサイト「月探査情報ステーション」に参画、現在ではそれを引き継いで 22 年にわたる運営を続けています。



また、特に大学に移ってからは講演やイベント、書籍執筆など、各方面へ活動を広げてきました。

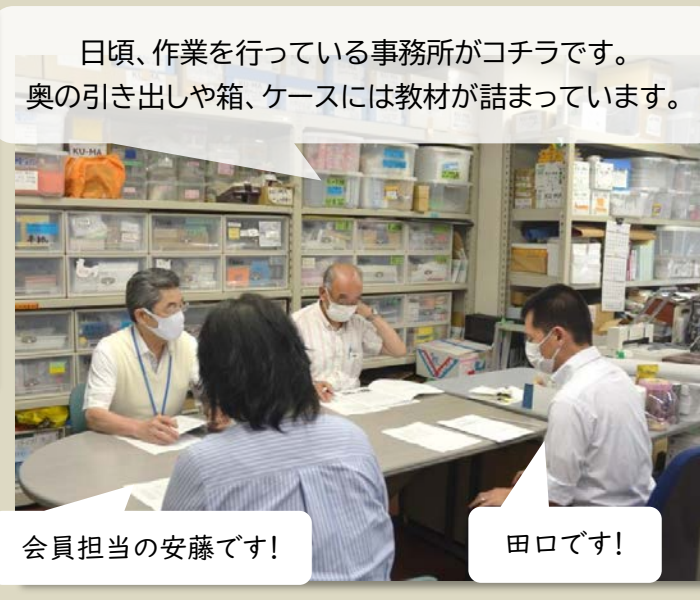
ここ最近ではコロナ禍の影響もあり、直接会う形の講演やイベントが減っていますが、やはり講師と聴衆が向かい合う形のイベントは、特に子どもたちには大きな刺激になるかと思えます。先日も高松で久々の対面型講演を行っていましたが、子供が私の本を持ってサインを求めてきました。オンラインではこうはいきません。

講演やイベントを通して、私自身のいわば「背中をみせる」、固い言葉でいえばロールモデルをみせられる、それも教育の一環なのかなと思っています。

宇宙教育で若い人たちに刺激を与え、さらには宇宙教育を担う若い人たちを育てていくことが、これからの私の使命かと思っています。もっとも、直近の使命は、未だ福島県内で開催できていない「宇宙の学校」の開催でしょうか。宇宙研、そして宇宙研の広報魂を受け継ぎつつ、教育、そして広報・アウトリーチの道をこれからも進んでいきたいと思っています。



写真上：金井宇宙飛行士と記念撮影…してみました  
左：今年で 22 年目を迎える月探査情報ステーション (https://moonstation.jp) のトップページ



令和 2 年 6 月 26 日 KU-MA 通常総会が開催されました。

今年は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、日ごる作業を行っている事務所内でソーシャルディスタンスを取りつつ、会長ほか数名の参加で厳かな雰囲気で開催いたしました。正会員の皆様には書面での表決にご協力いただきありがとうございます。

総会資料 17 ページの寄付金額の推移の表に一部誤りがありましたので訂正したページを同封いたしました。ご確認の上、差し替えをお願いいたします。

審議事項の全てが承認されましたが、事務局より、「新型コロナウイルス感染症の影響により、今まで行ってきた対面での活動が制限され、年度当初の事業計画や予算などに大きく影響がでることが予想されます。今後の業務執行状況については理事会等で連絡、報告しながら活動してまいります」との補足もありました。

このコロナ禍の環境の中で、できることを模索し、新たな活動などにもチャレンジしてまいります。まずは、オンラインを活用した会員の皆様やご家族向けの講座や講演など企画しております。